

踊る浅ましきバケモノ、芝高等学校3年阿曾祥大

人は、狂う。私は全般性不安障害と鬱病、さらに生活に大きな（かなり大きな）支障が出る。レベルの注意欠如障害の診断を受けており、生活がしっちゃかめっちゃかになっっている。ここ数年、何が起きているのかよく分からない日々が続いている。毎日、幻覚の中でアニメのキャラクターに罵倒されながら（当たりを引くとたまに褒めてもらえる）就寝し、小鳥のさえずりの音で起こされる。この小鳥のさえずりは幻聴ではなく、私がアラームの音を小鳥のさえずりに設定しているからだ。（なんか素敵じゃないですか、これ。）次の睡眠をとるまで、何をしても過去に犯した失敗や痴態がフラッシュバックし、吐き気を誘う。そんな憂鬱な日々の中、私はいつも一つのこと、本当に一つのことだけを考えている。それは、「俺って何者なんだろう」という問題である。ありがちすぎる。もっと高貴で、奇抜で、特別な悩みが欲しかった。それがなんだ？私が悩んでいる事案は青年期の発達課題、そのものだ。あーあ。なんとなく、私は過度にアイデンティティの問題に固執している気もする。明らかに精神面、特に自己肯定感の面で問題があり、自分で自分の生きる意味を認めてあげられない私たちは、具体的な指標の見えやすい社会的地位や年収、学歴、大会での勝利などといった分かりやすい成功を過度に求めてしまう。「〇〇ですごい人」という自分のキャラクターを確定させたいのだ。ここで努力し、自身のアイデンティティを確立させれば、それで話は終わりである。（上には上がいるので、それなりに辛いのかもしれないが。）しかし、私の場合、ここで大問題が発生する。「努力をしたくない」のだ。なんの労力もなしに賞賛されたいが、どうやらそうもいかないらしい。ならば、他の方法で自分を特別な存在だと思ひこむ必要がある。私は、「狂っていること」をアイデンティティとし、自分の狂気をネットに投稿してきた。しようもないのはわかっていいる。狂気なんてのは生活の崩壊それ以上でも以下でもない。しかし、ネットで「狂っている自分」を投稿すれば、数値化された承認によって特別感が得られる。狂人というキャラクターを手に入れることで、私はその狂いを誇りとし、安心感することができた。しかし、もちろんこの方法には大きな問題点がある。このやり方を続けすぎると、狂った自分を表現するため投稿しているのか、それとも投稿することが目的になり、そのために意図的に狂った行動を取っているのか、区別がつかなくなる。後者は酷く滑稽だ。アルゴリズムに操られ、わざわざ労力と時間を使って狂人の演技をしているのだから。こうなると、これまでのアイデンティティだった「狂っている自分」が「アルゴリズムの被害者であるかわいそうな自分」に変わってしまう。現在の若者はほぼ全員がアルゴリズムの被害者である現代社会において、アルゴリズムの被害者というキャラクターはなんら特別ではない。アイデンティティにはなり得ないのだ。なんとかここから抜け出さなくてはいけない。デジタル時代の被害者という敗北者から「本物の狂人」という特別な存在、最高の勝者へと成り上がらなくてはならない。ここで私は解決策を思いついた。「踊る」ことだ。撮影も投稿もせずに、部屋で一人踊れ。足を動かせ。そこには承認欲求とは関係のない純粋な狂気がある。承認欲求に狂わされた大衆とは明らかに異質な、特別な狂気がそこにはある。誰にも言わずに、一人部屋で踊れば、アイデンティティの問題はすべて解決する。特別になれる。俺は狂ってる！狂ってる！！！！大丈夫だ！！！！！！お前も踊れ！！！！ステップを踏むだけだ！！！！おい！！俺は狂ってるぞ！！！！！！俺の意思で狂ってる！！大丈夫だ！！！！！！「でも、ほんとうに、ひたすらに、寂しい。」